

シバセ工業株式会社

飲料用および工業用ストロー分野で
高付加価値の少量多品種生産を実現

飲料用および工業用ストロー分野でトップをゆくシバセ工業。
その躍進を支えたのは、磯田社長が導入した自動検査装置技術だった。

一社依存体質が招いた
廃業寸前の経営危機

岡山県浅口市は日本のストロー製造発祥の地とされる。もともと麦の栽培が盛んで、麦わらを利用してストローづくりが始まったという。

近年安価な海外製品が輸入され次々とストローメーカーが廃業する中、シバセ工業は少量多品種生産と工業用ストローという新用途を開拓し、業容を拡大している。

「実は当社もかつて廃業の危機にありました。長年にわたり大手乳業メーカーに95%の商品を依存していたのですが、突然そのメーカーが、他社がライ

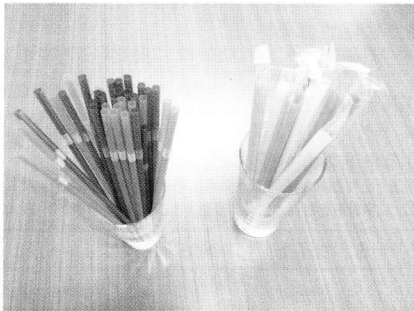
センスを持つ2段式ストローを採用し、一気に経営難に陥ったのです」という磯田社長。実は磯

田社長は、日本電産でモーター用自動検査装置の開発・設計を担当するエンジニアだった。ところがシバセ工業の先代社長に跡継ぎがなく、地元出身で遠縁の親戚に当たる磯田氏に、後継者となることを懇願。1998年、磯田氏はまず工場長として入社、その時初めて会社が危機的状況だと知った。

営業努力と工業用途で
経営を立て直す

「営業担当もおらず、開発の経験もない。何とかしなければ

と、営業経験者を雇って1軒1軒地道に開拓しました。さらに



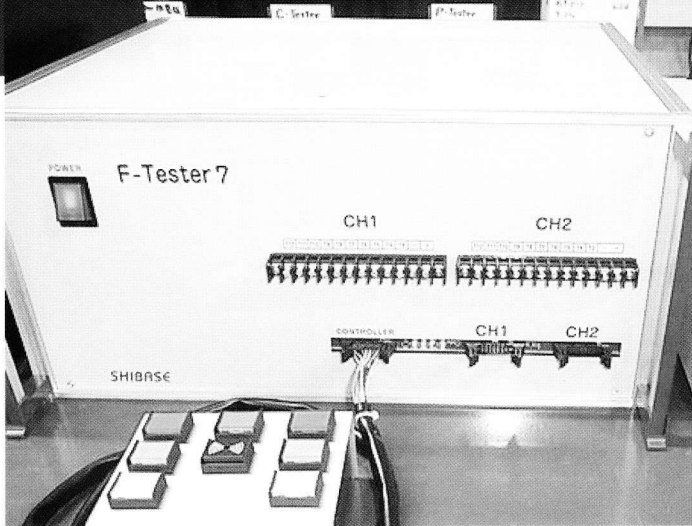
タピオカ用、スムージー用など顧客の要望にあわせて、さまざまな直径や長さ、色などのストローを製造。



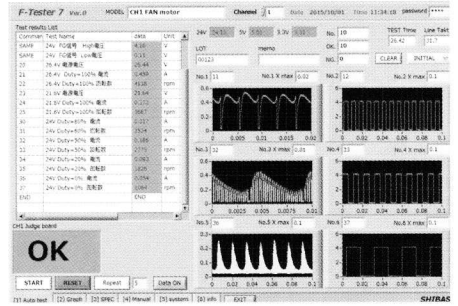
素麺製造から出発し、先代社長がストロー製造を開始。磯田社長は自身の経営改革を「第3の創業」と呼ぶ。



飲料用ストロー分野では、他社の真似のできない少量多品種生産を実現。海外からの安価な輸入品が増える中で、品質の高さと顧客ニーズへの対応力で業界をリードしている。



磯田社長が日本電産時代に培ったエンジニアとしての技術力を活かし、自動検査装置の開発・生産を行う電子事業部。将来は技術者の数も増やし、同社の経営の柱のひとつとしてさらなる事業拡大をめざす。



自動検査装置の画面。自社の生産ラインにも導入し、品質向上と生産効率化に役立っている。



機械部品、医療品、事務用品など、工業用ストローは様々な分野・用途で使用されている。

ホームページを作りインターネットで宣伝したのです。すると、ぼつぼつと問い合わせが入り始めた。それは従来の飲料用ではなく、装置の部品として、あるいは容器やカバーなど、予想もしていない用途の相談だった。「そこで『工業用ストロー』というカテゴリを作り、顧客からの様々な提案をうけ、できる限り商品化していきました」。こうして工業用部品や医療用・文具用のカバーなど、同社のストローは幅広い用途に使われ始めた。

一方、飲料用ストローの顧客も順調に増え、タピオカ用やスムージー用など、他社で対応できない太さの注文も受注している。「今では数百社に納入し、1社への依存度を5%以下に抑えています」。さらに日本電産退社時に、同社から磯田社長が個人事業として受託していた検査装置の開発も会社の事業に組み入れ、見事に経営を立て直した。

自動制御技術を駆使し 少量多品種生産を実現

こうした幅広い種類のストロー生産を可能にしたのが、磯田社長が前職で培った技術開発力だった。ストローの生産ラインに、自社開発した計測装置を設置し、さまざまな制御を行うことで、太さや薄さなどの異なる製品を、効率よく少量多品種生産することができる。さらに工業用部品としての要求に応える、高い精度も得られるようになった。



磯田拓也代表取締役社長

シバセ工業株式会社

- 代表者：磯田拓也
- 創立：1949年
- 業務内容：飲料用および工業用ストローの製造・販売、自動検査装置の開発
- 所在地：岡山県浅口市鴨方町六条院中 3037
- 連絡先：Tel.0865-44-2215
Fax.0865-44-2640
<http://www.shibase.co.jp/>



ストローでエビや鳥、竜などをつくるストロー細工の本も出版。自社HPでもアーティストの作品を紹介している。

「今までは自分の技術力でやってこられた部分があった。これからは次代を担う、開発ができる技術者を育てていくことが、私に課せられた役目だと考えています」と語る磯田社長の挑戦は、これからも続く。